

公益財団法人青森学術文化振興財団
令和7年度助成事業

区 分	件数 (件)	金額 (円)
県内の地域における学術・文化の振興に係る事業に対する助成	50	19,503,000
①地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)	12	10,845,000
②地域の振興に係る研究事業(一般)	13	3,124,000
③公開講座開催事業	23	4,979,000
④学術・文化振興事業	0	0
⑤学術図書出版事業	2	555,000
青森公立大学の国際交流を中心とした教育活動に対する助成	1	5,887,000
⑥人材育成事業	1	5,887,000
⑦国際交流・教育事業	0	0
合計	51	25,390,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

① 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
1	青森公立大学	教授 佐々木 てる	伝統文化のアーカイブ化ー青森ねぶた祭を中心にー事業	本研究は令和5年度から行っている「伝統文化のアーカイブ化」プロジェクトの継続事業である。本年度も事業の趣旨は青森ねぶた祭の伝統継承のために、その歴史伝統を後世に伝えることにある。令和7年度は大阪万博でのねぶた出陣に関する調査、山陰地方の文化財保存に関する調査を中心とする。最終年度ということもあり、令和6年度までに収集した、青森ねぶたに関する写真や資料といったものに関して展示会を行うこととする。	900,000
2	青森公立大学	准教授 野坂 真	地域主体の防災と事前復興に向けた研究ー東日本大震災の被災地と青森県内の未災地をつなぐー	災害が多発し激甚化する現代、地域社会の将来を考える上で、事前の防災と復興に向けた備えは欠かせない。青森県内では、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に伴う津波災害等により、大きな被害が想定されている。本事業では、東日本大震災の被災地で調査を行い、その結果を青森県内の今後災害で被災するかも知れない地域、つまり未災地に伝えることを通じて、災害へいかに備えていけば良いかを住民と協働して考える。	950,000
3	青森公立大学	准教授 渡部 鮎美	過疎高齢化の中の地域社会の創生ー青森県と韓国の比較民俗学的研究ー	本事業では1970年代以後、過疎高齢化が進む日韓の地域社会で人びとがどのように地域社会を創生してきたのかを生計活動のみならず、コミュニティのあり方や生活文化まで幅広い分野の民俗誌的調査によって明らかにする。調査では聞き取り調査や参与観察といった民俗学的手法によって青森県蓬田村と韓国の西端に位置する黒山島の地域社会を詳細に記述し、世界経済の変化の中で地域社会を創生していく方法を提示する。	796,000
4	青森大学	教授 櫛引 素夫	北海道新幹線・札幌延伸への準備および北陸との協働ー青函エリア発『新幹線学』構築の試みと提言(3)ー事業	北海道新幹線札幌延伸を目標に、「県人口100万人割れ」時代に備え、青森県／青函圏域を再デザインする手がかりとなる調査と実践を試みる。2024年春の北陸新幹線・敦賀延伸が地域にもたらした変化を確認し、協働の構築、青函圏と北陸の文化的・経済的交流の可能性を探る。これらを通じ「新幹線学」について検討し、併せて、時期未定となった札幌延伸への対応再構築の基礎資料をつくる。	950,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

① 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
5	青森大学	教授 秋田 敏博	異世代間交流プログラムの開発事業	高校生、小学生の郷土への愛着心を育成し、将来の地域定住につなげることを目的として、大学生や地域住民と異世代間交流をしながら地域で学習活動を行うプログラムを開発、実践する。活動内容は、「ぬい撮りを活用した郷土学習」と「読み聞かせによる地域貢献」とする。読み聞かせに関しては、高校生と地域の読み聞かせグループとのネットワーク形成を行う。※「ぬい撮り」とは、自然風景などを背景にぬいぐるみを撮影すること。	804,000
6	青森大学	准教授 池田 哲朗	口腔ケア教育による口腔内フローラ(真菌叢)の変化の研究事業	全国的な歯科検診率は医科検診率に比べ低く、青森県のそれは全国平均より低い。検診率を上げるため、「口腔ケア教育」を青森大学で取り入れ、R6年度に採択された「口腔ケア教育による口腔内フローラの変化の研究」の解析を継続している。細菌叢を解析しているが、真菌叢の変化は解析していない。真菌叢は細菌叢へ影響するため、継続して研究を進める。さらに、変化が認められる細菌、真菌の量の変化を系時的に解析する。	950,000
7	青森中央学院大学	教授 中村 陽一	まちをデザインする新たな学びの場の開催および環境整備研究事業	現在、青森市では西市長のリーダーシップのもと「みんなで未来を育てるまち」をめざして、人口戦略会議による消滅可能性自治体からの脱却へ向けた方向の一つとして若い世代の「シビックプライドの醸成」が掲げられている。そこで、若者が将来のUターンも含めた可能性を持つ人「財」として地域課題への関心を深めるための「まちをデザインする新たな学びの場」のプログラム開発と開催を通じて、今後の地域環境整備研究を推進する	950,000
8	青森中央学院大学地域マネジメント研究所・経営法学部	所員・教授 竹内 紀人	大学生による関係人口受入支援態勢構築に関する実証研究事業	5年度の地方創生枠以来の継続発展事業3年目である。大学生が「関係人口」の受入支援体制を強化し、行政その他と連携し、地域の関係人口増加に貢献することを目的とする。6年度まで、ワーケーション交流等、直接的な対応に注力したが、新年度は、交流活動を継続しつつ、マーケットイン指向を強め、地域の受け入れ態勢向上に寄与する活動を進める。大学生が地域の魅力を再認識し、シビックプライドを高めていく点は同様である。	895,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

① 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
9	柴田学園大学	教授 前田 朝美	腎疾患の発症予防におけるリン酸の栄養生理学的研究事業	高齢化に伴って腎疾患は増加しているものの、疾患認知度は低く、予防策は十分に知られていない。本研究では腎機能維持に大切な血中のリン酸コントロールについて、時間栄養学の観点から、リン酸の摂取時刻との関連について調べる。これにより、リン酸の適切な摂取方法について検討する。 本研究は、研究成果をもとに腎疾患予防の具体的な食生活について普及・啓発を行い、青森県の健康寿命の延伸に寄与する。	950,000
	柴田学園大学	助教 佐藤 瑞穂	サッカー選手の栄養状態の把握と栄養サポートによる地域活性化に関する事業	本事業は、青森県内のサッカークラブチーム、特にブランデュー弘前FCを対象に、選手の栄養状態を把握し、栄養サポートを通じて競技力の向上を図ることを目的とする。選手の健康管理やパフォーマンスの向上を通じて、地域のスポーツ文化を発展させ、JFL昇格による地域経済への貢献を目指す。また、確立された栄養評価法は他のクラブや学校にも応用され、青森県全体のスポーツ振興と地域活性化に貢献する。	900,000
11	八戸工業大学 (感性デザイン学部)	准教授 東方 悠平	東南アジアのアーティストとの交流を通じ、文化活動を通じたダイバーシティ社会の推進を目的とする事業	引き続きアーティスト・イン・レジデンス(AIR)の研究実践を元に、事業を行う。昨年度と異なり、インドネシアのジョグジャカルタ等を中心としたアートコミュニティを現地でリサーチして、芸術文化の地域における機能を調査する。もう1つは、当該のコミュニティからアーティストを八戸市へ招へいする。約1ヶ月間滞在してもらい、期間中のワークショップなどを通じて地域の人たちと交流する。これらの効果を学術的に検証する。	900,000
12	八戸工業高等専門学校	准教授 金 善旭	三沢地域における米軍ハウスの地域資源としての活用可能性に関する研究	本研究は、戦後三沢地域に建設されてきた米軍ハウスを地域資源と捉え、その歴史的変遷や現状を把握するとともに、他地域との比較を通じて独自の特性や活用可能性を探る。また、現存する米軍ハウスをデジタルアーカイブ化し、研究や保存活動に役立つ基礎資料を作成する。これにより、米軍ハウスを地域の歴史や文化を伝える貴重な資産として活用する可能性を明らかにすることを目指す。	900,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
1	青森公立大学	研究員 松本 京子	青森県の外国人観光客誘致に向けたSNSの活用に関する研究事業	本事業では青森県の外国人観光客誘致に向けたSNSの活用に関する研究を行う。青森県は中国最大ソーシャルメディア系SNS「Weibo」で公式アカウントのフォロワー数が130万人を越え、公式アカウントを有する日本の自治体の中で全国1位である。しかし、実際の青森県を訪れる観光客数には十分に繋がっていない現状がある。本事業を通じて地域の活性化も見据えた青森県の魅力発信のあり方について提言することを目指す。	285,000
2	青森公立大学	教授 丹藤 永也	英語科における生成AIを活用した指導法に関する研究事業	本事業の趣旨は、文部科学省令和5年度「英語教育実施状況調査」で示された青森県の英語力等の状況に鑑み、県内小中高等学校の児童生徒の英語力の向上や英語指導の改善並びに英語教師の負担軽減を図るために、生成AIを活用した効果的な指導法について検討することである。そのために、県内小中高等学校の英語教師を対象としたアンケート調査と大学教員を講師として招聘した研究会を実施する予定である。	285,000
3	青森公立大学	研究員 後藤 厚子	工芸作物生産による持続可能な青森県農業・農村振興に関する研究事業	青森県には、こぎん刺し・南部菱刺しなど、厳しい自然条件の下で育まれてきた多様な伝統工芸品が存在する。しかし、効率性重視の農業関連諸施策展開の帰結として、後継者の育成・原材料の確保が困難な現状に至っている。本事業は、①風土に根差した農村生活文化の継承に女性農業者が果たす役割と意義、②工芸作物生産の動向と課題について考察した上で、持続可能な本県農業・農村振興の実現に向けた支援策の方向性を明らかにする。	270,000
4	青森大学	准教授 吉村 祥	青森県で分子職人の育成～その2～事業	青森県の祭り、工芸品、骨とう品、娯楽、郷土料理などの伝統は、高度な技術によって支えられており、次世代への継承を繰り返す過程で常に大きな進化を遂げている。当事業は、青森の持つ高い技術と、それを受け継ぎつつ更なる改良に励む次世代の力を有機化学に取り入れるべく、「分子を作る楽しさ」を地域の若い世代へ広く伝えることを目的とする。併せて、学術的な側面から地域の次世代活性化を目指す。	270,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
5	青森大学	教授 沼田 郷	青森県における機械工業の現状と取引関係に関する考察	本県にはキヤノン、オリンパス、タムロンといった大手企業が立地している。こうした企業が地域企業との関係をどの程度有し、有機的な関係を構築しているのかについて調査する。これまで、本県においてこのような調査・研究は行われておらず、個別企業レベルの調査・研究にとどまっている。社会情勢が大きく変化する中で、本県の中核的企業がどの程度地域に浸透、密着したものになっているのかを明らかにする。	198,000
6	柴田学園大学	講師 花田 玲子	健康づくりの食事の質の評価と活用に関する研究事業	生活習慣病予防には、栄養効果を考えた食事が不可欠である。健康づくりの食事の質の評価がわかりやすく示されていることは、質の高い食事を選択する動機づけとなり、実行に結びつく。栄養価に基づく「栄養スコア」、作りやすさによる「簡単スコア」、食事づくりを後押しする「後押しスコア」により、食事の質を捉えやすく示すことで、健康食づくりが可能となる。行動変容につなげる評価基準の設定と活用を目指す。	258,000
7	柴田学園大学	助手 佐藤 梨沙	摂食行動を調節する嗜好性に関する研究事業	本能的な嗜好性が摂食行動の調節にどのような相互関係があるかを明らかにし、得られた知見を地域の食育活動や健康教育に導入することで、健康増進および疾病予防に貢献することを目的とする。高等動物を用いて、嗜好性を調べ、生理的欲求によって得られた食餌の生体への影響および食欲調整に関与するホルモン、生体内成分の調整に関わる遺伝子発現変化を調べ、嗜好性が摂食行動の調節にどのように関連するのか検討する。	270,000
8	柴田学園大学	助手 齋藤 望	生活リズムの違いによる空腹感と食欲の摂食リズムと食事摂取状況から生活習慣病予防を検討する事業	本研究では、ライフスタイルが大きく変化する30代～40代の働き世代20名を対象に、朝型と夜型の生活リズムの違いにより、摂食リズムや食事摂取状況の特徴が異なるか検討する。また、本人が自覚する食生活の問題点や悩みを聞き取り、生活リズムや摂食行動の面から食生活改善の提案を目指す。	269,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
9	柴田学園大学	助教 古村 和歌子	市販食品における食品添加物および食品成分の実態と分析～モデル献立の検討～	近年共働き及び単身世帯の増加、生活スタイルの多様化によりニーズが高まっている加工食品は、利便性が高いだけでなく質の向上により購入量は増加している。しかし、加工食品に多く含まれているリンは食事摂取基準の目安量より多く摂取されており、健康な人においても腎臓の機能維持を目的に口から入る食事の中のリン量をコントロールすることは重要である。食材中のリン量を整理し、組み合わせや頻度の目安となる献立の検討を行う。	108,000
10	柴田学園大学	准教授 奥野 海良人	青森県発の微生物によるアルコール摂取に伴うリーキーガットの改善事業	炎症性腸疾患は患者のQOLを著しく低下させ、その上基本的に生涯治療が必要になる。そこで本事業では令和5年度助成事業により明らかとなった青森県に特有な微生物(乳酸菌X株)による内在性の抗炎症物質を増加させる作用を利用した炎症性腸疾患の新たな予防・治療法の開発を目的とする。	270,000
11	柴田学園大学	准教授 小沼 奈緒美	青森県における「健康な食事・食環境」認証制度(通称:スマートミール)の普及に関する研究事業	わが国の食環境整備事業「健康な食事・食環境(通称:スマートミール)」認証制度外食部門の登録事業者は全国で102あり、そのうち青森県は3件と少ない状況である。そこで、青森県の食環境整備事業の基礎資料を得ることを目的に、青森県食環境整備事業である「青森のおいしい健康応援店(令和6年3月事業終了)」の該当事業者の提供するメニューを調査すると共に、関係者への質問紙及びインタビュー調査を行う。	100,000
12	北里大学 (獣医学部)	准教授 長坂 善禎	牧草の草高と植生から土壌の状態を推定する技術の開発事業	タイムラプスカメラと超音波センサ、植生指数計測装置と高精度GNSS受信機をロボットに搭載し、生育期間中の任意のタイミングで牧草地を走行しながら位置情報とともに画像と草高を記録するシステムを開発する。場所ごとの草高と植生の状態、植生指数から土中の肥料分の過不足を推定し、最小限の施肥で草種構成の維持や安定収量を維持する技術を開発する。計測データと土壌分析推測したデータを比較、評価する。	271,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
13	北里大学 (獣医学部)	教授 岡田 あゆみ	ニホンジカによる自然植生被害防止のためのモニタリング調査(宇樽部調査区)事業	ニホンジカの個体数増加による自然植生の被害が各地で報告されている。青森県の豊かな自然植生を守るためには、現在の自然植生を記録するとともに、被害に対して早期対応を実施できるよう、植物の変化を継続的にモニタリングする必要がある。そのため、申請者は2015年からニホンジカの影響を繊細に検出可能な固定区の設置による植生調査を青森県内で実施している。本年はその一環として宇樽部の固定区での調査を実施する。	270,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
1	青森公立大学	教授 佐々木 てる	ねぶた学事業	青森ねぶた祭における歴史と伝統、そして革新を考えるためには、そのねぶた師の系譜を学ぶことは重要である。これまで千葉流派のねぶたに関する研究はまとめてきたが、北川系のねぶた師に関するテーマで公開講座を行ったことはない。そこで今回は初代名人の北川金三郎、第二代名人北川啓三のねぶたを考える。「北川系の伝統と革新」として公開講座を行う。	285,000
2	青森公立大学	教授 佐々木 てる	経営塾事業	青森では地域活性化を目指し、新しい起業・新規の事業展開をバックアップする政策などがすすめられている。しかしながら、起業をするにあたり、どのようなビジネスプランで挑めばいいのか、またどのような方法で事業を展開するのがいいのか知る機会は多くない。そこですでに実績のある経営者から、具体的な事例を含め「青森公立大学 公開講座 経営塾」として経営者の思想を語ってもらう。	285,000
3	青森公立大学	教授 大矢 奈美	大学院公開セミナー事業	本学大学院では、地域課題の解決に資するべく、教育・研究を行なっている。その成果の一部を公開セミナーによって市民に紹介し、解決策を考えるきっかけを提供する。また、大学院では経営・経済学の専門知識をもった高度専門職業人材を育成するため、社会人院生も受け入れている。こうした人材の育成は、地域発展に不可欠である。公開セミナーで大学院での学びや研究を紹介し、社会人の学びへの意欲を高める機会とする。	178,000
4	青森公立大学	准教授 大森 史博	浅虫てつがく対話事業	子どもから大人まで参加できる哲学対話のワークショップを浅虫で開催することにより、解き難い問いをじっくりと考えることができる対話の場を地域に形成する可能性を探る。歴史的・文化的・芸術的な足跡の刻まれた浅虫は、青森を象徴するランドマークの一つといえる。その地に、他者と出会い、言葉を交わし、ともに考える哲学対話の場を開設することにより、モデルケースとして実践的に検討したい。	182,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
5	青森公立大学	准教授 西村 吉弘	学校支援ボランティア養成講座事業	現在、学校と地域の連携・協働活動に伴い、地域との連携が進められている。青森市では、「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」が立ち上げられ、2024年度時点で12中学校区の39校が指定され、ボランティア養成の必要性も高まっている。 よって、連携・協働活動の中心となる学校支援ボランティアの養成講座を開催することで、学校や地域の理解、更に支援者としての意識の向上や力量形成の展開に取り組む。	285,000
6	青森公立大学	講師 エシアナ ベネス	外国語講座事業	参加者の語学力と幅広い興味に対応できるよう、 ・異文化の理解、 ・英語検定(TOEIC等)、 ・一般的な英語学習(一般英語、ビジネス英語)、 ・英文学入門、 などについての講座を開催し、受講者の語学レベル及びコミュニケーション能力の向上を目的とする。	138,000
7	弘前大学	准教授 内藤周子	会計教育に関する公開講座開催事業	本事業は、経験学習による会計教育の第一人者を講師としてワークショップ形式の公開講座を開講するものである。本公開講座は、会計に対する新たなイメージを涵養することで、会計学への関心と理解を深めることを趣旨としている。	285,000
8	弘前大学大学院 (保健学研究科)	准教授 北島麻衣子 助教 橋本 美亜 助教 高間木 静香	育児中の母親のためのリフレッシュ講座事業	本事業は、地域で子育てをしている母親を対象に、リフレッシュすることを目的とした講座を開催するものである。リフレッシュ講座の開催により、地域で子育てしている母親が心身ともに健やかに生活するための一助とすること、ならびに、講座の開催を通じて教育・知的資源を社会へ還元することを目的としている。	163,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
9	青森大学	講師 熊谷 芳子	適正飲酒に関する公開講座事業	本事業では適正飲酒及びアルコール依存症に関する理解を深め、本人または家族のアルコール依存症の早期発見・早期治療につなげることを目的とする。 また、問題飲酒に悩む家族に対する相談窓口やWeb介入ツールなどの各種社会資源等の講演及び、ストレス対処スキルの向上を目指したワークショップを行い、講座後にも継続して飲酒に関する普及・啓発活動に参加できるよう動機づけを高めることを目的とする。	252,000
10	青森大学付属総合研究所	所長 沼田 郷	青森大学付属総合研究所公開講座事業	公開講座として、青森県の近・現代史に関する講演を開催する。 青森県の近現代史を学ぶこの講演は、前年度、政治家の淡谷悠蔵氏と竹内俊吉氏が活躍した時代を中心に、様々なエピソードが語られ、淡谷氏と竹内氏は支持政党が違っても親友として信頼していたことなど会場に集まった参加者から大きな感心が寄せられた。	96,000
11	青森中央学院大学 地域社会活動委員会	委員長・教授 成田 昌造	青森中央学院大学 特別公開講座事業	持続可能な地域づくりにかかわる、さまざまな社会課題の解決を目指し、時宜に合ったトピックを抽出して公開講座を実施する。地域に根ざし開かれた教育・研究の拠点である本学において、専門的知見や先鋭的視点から課題解決や将来戦略構築のヒントを探り、地域や市民と共有することを目的とする。	270,000
12	青森中央学院大学 地域社会活動委員会	青森中央学院大学 地域社会活動委員会 成田 昌造	青森中央学院大学 市町村長リレートーク事業	今日、各自治体の課題にリーダーとして取り組んでいる市町村長から、直接お話を聞きし、地域のさまざまな課題とその解決方法、将来像等を共に考え学ぶ機会を公開講座の形式で一般市民に提供する。	220,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
13	青森中央学院 大学 地域社会活動 委員会	委員長・教授 成田 昌造	青森中央学院大学 まちなかキャンパス 市民講座事業	青森市新町商店街にある本学サテライトキャンパス、AOMORI STARTUP CENTER(青森商工会議所)、市内公共施設を会場として、市民の関心が高く、気軽に参加できる講座を実施する。	270,000
14	青森中央学院 大学 経営法学部	教授 竹内 紀人	アナウンス・話し方に関する公開講座開催事業	今日のネット社会では、特にSNSの普及により、コミュニケーションの方法が急激に変化している。半面、言葉による対面型コミュニケーションの重要性も再認識されており、伝えるための話し方は、一般社会において必須の能力である。本講座は、一般社会人、学生等を対象として、地域住民の言語力向上を図るとともに、魅力的な「読み」「語り」といった音声技術の向上により、地域の文化振興にも寄与する事業である。	277,000
15	青森中央学院 大学地域マネジメント研究所	所長 小松原 聡	青森中央学院大学 地域マネジメント研究所 ビジネスセミナー事業	青森新時代が2040年にめざす姿「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」の実現における課題の抽出とその解決を目指し、ビジネスに関する時宜にかなったトピックを抽出して公開セミナーを実施する。地域に根ざし開かれた教育・研究の拠点である本学が主催することにより、専門的知見や予見的視点から課題解決や将来戦略を構築するヒントを探り、地域や市民と共有して青森の将来を考える。	217,000
16	青森中央学院 大学 看護学部	教授 中川 孝子	青森中央学院大学 脳活いきいきプログラム事業	認知機能の改善、認知症の予防を目的として、地域の高齢者を対象に、運動療法、音楽療法、臨床美術、栄養教室を組み合わせた複合型プログラムを実施する。プログラム参加前と参加後に、認知機能検査と運動機能検査を実施し、プログラム参加による効果等を測定し、参加者の認知予防に寄与する。	285,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
17	青森中央短期大学	地域連携・研究支援 委員長 教授 鈴木 寛康	青森中央短期大学 公開講座事業	青森県が抱える課題解決のため、青森中央短期大学が擁する食物栄養学科・幼児保育学科それぞれの特性を活かし、食・保育・教育の観点から地域課題解決の一助となる公開講座を実施する。	191,000
18	青森中央短期大学 食物栄養学科	准教授 森山 洋美	じいじ&ばあばのための幼児食講座	青森県(以下、本県)在住の孫育てに関わる祖父母を対象に、幼児食講座を対面とオンラインで実施する。子育てに関する情報や知識は祖父母世代と親世代では異なることがある。特に食に関しては、子どもたちが生涯にわたり健康に生活をするためにも適切な知識や情報を得ることが必要である。そこで、本事業では、祖父母に孫世代の食に関する望ましい知識やスキルを習得する機会を設け、世代間の齟齬をなくし子育て支援に繋げる。	255,000
19	青森中央短期大学	講師 木戸 永二	継続的な造形体験を促す創造の場の創出事業	①継続的な造形体験を通して、子どもたちの表現力・創造性の向上に寄与する ②地域の子どもたちに表現活動の機会と場を提供することで、子ども、保護者の表現活動への需要にこたえる。 ③造形体験による感性を育む教育実践を通して、より専門性の高い保育士の育成を目指す。	168,000
20	柴田学園大学	教授 一戸 智之	柴田学園大学「わくわくカレッジ」事業	青森県「あおもり未来教育ビジョン Ver.1.0」の施策を踏まえ、幼児、小学生、中学生、高校生(親子参加可)、保護者を対象とした公開講座を開催する。幼児・小学校教育に関する学科教員の専門的知見を生かし、発達段階に応じた遊びや学びの体験、保護者向けの子育て支援に関する講座を実施する。本事業の目的は、子どもの創造性や表現力、豊かな感性を育むことで健やかな成長を促し、地域社会の活性化に貢献することである。	138,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

③ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
21	柴田学園大学 短期大学部	学長 島内 智秋 地域文化センター長 安田 智子	柴田学園大学短期 大学部公開講座事 業	公開講座は、本学の教育研究の成果を広く社会に公開し、学術及び文化の発展に寄与することを目的としている。 本学の伝統と特質を生かしつつ、家政学に注力した「衣食住」から、教育・保育、ICT等の分野まで、多岐にわたる幅広い知識・教育的財産を社会に開放し、地域住民に生涯にわたった学習機会の提供を推進している。	270,000
22	青森中央経理 専門学校	校長 石田 憲久 教諭 塚本 大広	青森中央経理専門 学校公開講座事業	青森中央経理専門学校は、主に経理・医療事務・観光分野において、社会に貢献できる人材の育成を教育目標とし、地域に根ざし開かれた活動を長年展開してきた。 本事業では一般市民や学生を対象に、金融知識を身に付けてもらう公開講座を、青森駅前にあるAOMORI STARTUP CENTERを会場として実施する。	170,000
23	青森中央文化 専門学校	校長 石田 憲久 教諭 竹洞 春佳	青森中央文化専門 学校連続公開講座 事業	生涯学習、地域貢献活動の一環として、服飾手芸に関する公開講座を実施することで、青森中央文化専門学校と市民の交流の場とする。青森市新町通りにある青森中央学院大学のサテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWを会場とすることで、青森市中心商店街の活性化を図る。	99,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

⑤ 学術図書出版事業

No.	大学等名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
1	青森公立大学	教授 小林 直樹	仮称『情報公開法制 の事例研究』事業	過去10年にわたり、大学紀要において発表した情報公開法制に関する判例研究および論文を、単著としてまとめ発表すること。内容は、紀要に記載した判例研究6本(合計:143頁)と論説4本(合計155頁)。二部構成で、総ページ数は298頁。	285,000
2	学校法人青森 山田学園	萱森 由介	青森大学演劇団「健康」30年史 資料編	学生劇団である青森大学演劇団「健康」の視点から、平成時代における青森市の演劇史をまとめる。「街づくりと演劇-青森市の演劇史と演劇の可能性-」(編集:青森演劇鑑賞協会 発行:平成7年)は、青森市の演劇史を記した唯一の書籍である。本事業は、その続編と位置付け、平成2年に創部され、平成生まれ平成育ちの青森大学演劇団「健康」の演劇の記憶を本にまとめるものである。	270,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和7年度助成事業

⑥ 人材育成事業

No.	大学等名	申請者	事業名	事業の趣旨	決定額 (円)
1	青森公立大学	学長 神山 博	青森公立大学学生のニュージーランド短期語学研修事業	国外の大学・研究機関との連携により、国際化社会に通じる多様な研究活動を行うことを通じて、国際社会の事情や理解促進に向けて、地域の国際交流活動に貢献するという公立大学法人青森公立大学の使命を達成するため、参加学生の語学能力の向上を図るとともに、オセアニア地域における生活を通して国際社会に対する理解を促進し、精神的に自立するための研修を支援する。	5,887,000